

三宅島火山ガス観測結果

2006年8月末～10月初旬に、2月～8月上旬の平均放出量 2000t/d から平均放出量 3200t/d への一時的な上昇が観測されている。

放出量の一時的な増加期間中の 9 月 2 日および 12 日に現地観測を実施したが、放出量変動に対応する明瞭な火山ガス組成変動は観測されなかった。

ただし、現地観測で得られた組成データはバラツキが非常に大きく厳密な評価は困難である。組成比は各観測日でも変動し、9 月 2 日と 12 日でも異なる値が観測されている。

三宅島火山の噴煙は火口内の様々な噴気孔から放出されている火山ガスの混合物である。主噴気孔の放出量が多い場合には、噴煙組成は主噴気孔の組成のみにより規制されていたが、最近の放出量の減少に伴い主噴気孔以外の寄与が無視できなくなり、組成の見かけの変動（バラツキ）が大きくなった可能性がある。

繰り返し観測により、バラツキの幅などを把握して、変動の有無を判断する必要がある。

自動繰り返し観測を目的とし、9 月 2 日に山頂部にある気象庁簡易設置法式観測装置内に、噴煙観測用センサーシステムを設置し、繰り返し観測を開始した。観測は毎日 1 時間行い、データはロガーに収録される。今後、測定データの信頼性などを検討した後にデータを予知連へも報告する予定。

図の説明

1. SO_2 放出量

2. $\text{H}_2\text{O}/\text{SO}_2$ 濃度比

らの寄与程度の相違であるか明らかではない。

丸印は放出量から計算された組成比。菱形は携帯型センサーによる山頂部での観測結果。

3. CO_2/SO_2 濃度比

丸印はヘリ観測結果、印が大きさは信頼性を示す。菱形は携帯型センサーによる山頂部での観測結果。

4. Cl/S 濃度比

ボックスは山麓でのアルカリ吸収液法、菱形は山頂でのアルカリフィルター法。

